



雨だれ石を穿（うが）つ

たゆまぬ努力を後押しする言葉があります。

「**雨だれ石を穿（うが）つ**」です。

小さな雨のしづくでも、長い時間をかけて同じ場所に落ち続ければ、やがて固い石にも穴を開けるという意味です。

短期間の努力では思うような成果が得られなくても、小さな努力を積み重ねることで、大きな成果や変化をもたらすことができるという教えです。

ある日のインタビューで、かのイチローは「今までに、これだけはやったな、と言える練習はあったか」と問われ、次のように答えています。

「僕は高校生活の3年間、1日たった10分ですが、寝る前に必ず素振りをしました。その10分の素振りを1年365日、3年間続けました。これが誰よりもやった練習です。」

高校時代の努力は、彼の自信と誇りとなり、その後の偉業を支え続けたのです。私たちも子供たちに、**自分でやろうと決めた目標に向かい、強い意志をもって、粘り強くやり抜く精神を育みたい**、こう強く願います。



七情の発動は中正に

実業家 渋沢栄一

人は喜怒哀楽愛惡慾（よく）の七情を有す。この七情の発動が常に中正を失わざれば、そこに人それ自身の発達、進歩がある。

またその発動が中正を得ざれば、自暴自棄等の悪徳に陥る。

出典：「渋沢栄一 一日一言 人間力を高める言葉」（致知出版社）

※ 自律の精神の涵養が重要であると考えます。